

第5学年社会科学学習指導案

指導者 教育センター所員 岩橋 孝也

本授業の概要

本時の授業は、野菜づくりのさかんな地域を知り、その特徴を「位置」「地形」「気候」の観点から考えさせ、自分なりに表現をさせます。その際、写真や地図、グラフなどの資料を基にしながら、事象の特色や事象間の関連を考えさせ、まとめの表現に結び付けたいと思います。

1 単元名 食料生産のさかんなところは、どこに広がっているの（日本文教出版5年上）

2 単元とその指導について

- 本単元は、我が国の主な食料生産物の分布や土地利用の特色などを調べ、我が国の農業や水産業が国民の食料を確保する重要な役割を果たしていることや、自然環境と深いかかわりをもって営まれていることを考えさせる。さらに、食料の自給と輸入との関係について考えることを通して、これからの食料生産と自分たちの生活の在り方について、自分なりの考えをもてるようにすることをねらいとしている。

日本は、海に囲まれた島国であり、農業のできる土地はわずか13%にすぎない。しかし、これまで食料生産に携わる人々は、それぞれの地形条件や気候条件などに合わせて、消費者に品質のよい食料を提供するために、様々な工夫や努力を行ってきた。しかし、現在の食料自給率39%は、主要先進国の中で極めて低い水準にある。昭和40年代に70%あった自給率が低下した原因としては、「食生活の変化」や「安い外国産食料の輸入増大」、「耕作面積の減少」などが挙げられる。自給率の向上を図るべきかどうかは、専門家の間でも意見が分かれている。しかし、近年、食料不足や輸入食料品の安全性、バイオ燃料などにかかわる価格の高騰など食料生産にかかわる問題は深刻さを増している。そのため、世界的な視野からも自給率の向上を求める声が強くなってきており、まずは平成27年度までに45%にすることを目標に様々な取り組みが行われている。

以上のことから、食料生産が国民の生活を支えていることを理解させるために、食料生産にかかわる取り組みを通して、人々の思いについて共感的にとらえさせたり、これからの生活の在り方を考えさせたりすることは大変意義あることと考える。

- 本学級の児童に、社会科の学習に対するアンケート（対象児童38名）を実施したところ、60%の児童が「社会科が好き」と答え、理由は「日本のことがいろいろ分かるから」「生活に役立つときがあるから」「地図を見るのが好きだから」などであった。それに対して、「社会科がきらい」と答えた児童のほとんどは「覚えるのが難しい」という理由であった。これまで、米づくりや水産業の学習と同時に、都道府県名の定着や資料の読み取りにかかわる取り組みを行ってきた。そこで、これまで培った基礎的な知識や技能を活用させるような学習場面を設定すれば、その必要性を実感させたり、更に知識や技能を定着させたりすることにもつながる考える。

本単元で取り扱う我が国の食料生産についてアンケートを実施したところ、米や果物づくりと比べると野菜づくりや畜産業のさかんな地域について、もっている知識が多くないことが分かった。また、「外国からきている食料にはどんなものがあると思いますか」という問いに対しては、ほとんどの児童が「パイナップル」や「バナナ」、「小麦」、「大豆」などを答えるなど、具体的に知っていることが分かった。しかし、「食料自給率」という言葉を聞いたことある児童は18%であり、具体的な内容を説明できたのは8%であった。ほとんどの児童が「食料自給率低下」の問題について知らないという実態を踏まえ、その事実に出会わせることによって、これからの食料生産の在り方を考えるきっかけにしていきたい。

- 指導にあたっては、新学習指導要領の趣旨を踏まえ、言語活動を効果的に取り入れた単元づくりに取り組むこととする。学習問題1「日本の食料生産は、どうなっているのだろうか？」にお

いては、「社会的事象の意味や意義を解釈すること」、「社会的事象の特色や事象間の関連を説明すること」に、学習問題2「日本は、これから食料自給率をどうしたらいいのだろうか？」においては、「自分の考えを論述すること」に重点をおくこととする。また、その際、統計資料や地図帳を中心にして、資料活用を能力を育成することもねらっていきたい。

「つかむ」段階では、我が国の食料生産に関心や疑問をもたせるために、給食の献立やスーパーマーケットの広告などの資料を提示することにする。また、既習の米づくりや水産業の学習を振り返らせることで、単元を通して児童に意識させる「位置」「地形」「気候」という3つの観点に気付かせるようにしたい。

「さぐる」段階では、「くだもの」「野菜」「畜産」の3つの食料について、グラフや地図などの資料を読み取らせたり、白地図などを使って作業させたりしながら、その生産がさかんな地域の特色や「位置」「地形」「気候」との関連について考えさせ、自分なりの言葉で表現させるようにしたい。また、学習の中で、外国産のくだもの輸入や宮崎牛の問題などにも触れることで、食料生産に携わる人々の思いや悩みに気付かせ、食料自給率の問題につないでいきたい。

「高める」段階では、食料自給率の問題について、過去から現在までの自給率の移り変わりや時代背景だけでなく、これから予想される問題などについても資料を用いながら説明し、児童の問題に対する切実性を高めていきたい。また、資料を基に、これから我が国は自給率を上げるべきか、現状を維持していくべきかについて、資料を集めさせ、それを基に自分なりの考えをもたせたい。その際、討論会を設定することを伝えることで相手意識をもたせたり、児童の考えが論理的なものとなるようにワークシートを工夫したりすることで支援を行っていきたい。

「ひらく」段階では、学級での討論会を行い、意見交流をした後に、もう一度自分の考えを見つめ直させ、友達の意見を参考にさせながら自分の考えを再構成させることとする。ただし、意見交流会の経験はあるが、まだ慣れていないところもあるので、司会は教師が行い、意見を整理したり板書等で意見の流れが分かるようにしたい。

3 単元の目標と評価規準

○指導目標

食料生産に携わる人々の仕事の内容や思いについて考えさせることを通して、食料生産の仕事が自分たちの暮らしを支えていることを理解させ、現在の生活を見直したりこれからどうするべきかを考えたりすることができるようにする。

○指導目標の達成状況を観る評価規準

- ・我が国の食料生産について関心をもち、学習課題を設定し、現状や携わる人々の工夫や努力などについても進んで調べようとする。 (社会的事象への関心・意欲・態度)
- ・食料生産のさかんな地域の特徴を考え、食料自給率の問題を通してこれからの日本の在り方について判断することができる。 (社会的な思考・判断)
- ・我が国の食料生産にかかわるグラフや地図を読み取り、自分の課題に沿って、資料を収集し、まとめることができる。 (観察・資料活用の技能・表現)
- ・様々な食料生産が国民の食生活を支えていることと、それらの仕事に従事する人の努力や工夫を理解することができる。 (社会的事象についての知識・理解)

4 指導計画・・・(全7時間)

過程	時配	主な学習活動(○)	指導上の留意点と 教師の働きかけ(○)	評価規準			
				関心	思考	表現	理解
つかむ	1	○日本の食料生産について関心や疑問をもつ。	○食料生産に関心や疑問をもたせるために、給食の献立表やスーパーマーケットのちらしから気付いたことを発表させる。 ○これまで学習した米づくりや水産業	○			







			の様子について振り返り、食料生産に携わる人々の工夫や努力を想起させる。			
		【学習問題1】 日本の食料生産は、どうなっているのだろうか？	○米づくりや水産業のさかんな地域の特徴について考えさせ、「位置」「地形」「気候」という3つの観点に気付かせる。			
さぐる	2	○くだものづくりのさかんな地域について調べ、特徴をまとめる。	○リンゴとみかんの生産の多い都道府県を白地図上にまとめさせ、気候の違いに着目させる。 ○グラフからみかんの生産量が減少していることに気付かせ、輸入の問題にも目を向けさせる。			○
	3 本時	○野菜づくりのさかんな地域について調べ、特徴をまとめる。	○児童の思考を整理させるために、野菜の生産の多い都道府県を白地図にまとめさせ、更に特徴的な4つの都道府県を取り上げる。 ○それぞれの地域が、なぜ野菜づくりがさかんなのかを写真やグラフ、地図を基にしながら考えさせる。			○
	4	○畜産のさかんな地域について調べ、特徴をまとめる。	○牛や豚、にわとりの生産の多い都道府県を白地図にまとめさせ、その共通点から特徴を考えさせる。 ○現代社会に目を向けさせるために、新聞記事等を使いながら宮崎牛の問題についてもふれるようする。			○
高める	5	○主な食料の輸入先や主な国の食料自給率のグラフから問題に気付く。	○過去から現在までの自給率の移り変わりや時代背景を説明し、自分の生活とのかかわりに気付かせるようにする。			○
		【学習問題2】 日本は、これから食料自給率をどうしたらいいのだろうか？	○自分なりの考えをもちやすくするために、「自給率を上げるべき」という立場と「現状を維持するべき」という立場の両面から資料を提示するようにする。			○
	6	○食料自給率についての資料を基に、自分なりの考えをまとめる。	○インターネットのサイトや図書資料などを準備し、調べ学習がスムーズにいくように支援する。			○
ひらく	7	○これからの食料自給の在り方について話合う。	○児童が自信をもって討論会にのぞめるように、まずは同じ考えをもつ同士で意見交換をさせる。 ○意見の流れが分かるように、板書を整理する。			○

5 本時の指導・・・本時3／7

(1) 本時の目標

野菜づくりのさかんな地域の特徴を「位置」「地形」「気候」の観点から考え、その地域がさかんな理由を考えることができる。
(社会的な思考・判断)

(2) 本時の展開

学 習 活 動	教師の働きかけ（・）と形成的評価（◆）				
<p>1 前時の学習を想起し、本時のめあてを知る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・リンゴとみかんのさかんな地域の特徴を思い出させ、「気候」が大きく影響していたことを確認する。 ・学習への興味を高めるために、佐賀県の野菜づくりのようすや生産額について知らせる。 				
<p>野菜づくりのさかんな地域の特ちょうをまとめよう。</p>					
<p>2 野菜づくりがさかんな地域について調べる。</p> <p> この写真は、土地が広いみたいだから、北海道の野菜づくりの様子かな？</p> <p> この写真は、山が近くにあるな。地図帳で確認してみよう。</p> <p> ビニルハウスがこんなにあるなんて、寒いところのようすなのかな？</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「都道府県別の野菜の生産額」（教科書P43）で生産額が400億円をこえる都道府県を調べ、視覚的に分かりやすいように白地図にシールを貼らせる。  <ul style="list-style-type: none"> ・野菜づくりがさかんな地域を4つに分け、野菜づくりの様子を表した4枚の写真がそれぞれのグループのようすかを考えさせる。 <table border="1" data-bbox="801 1615 1406 1691"> <tr> <td>A 北海道</td> <td>B 茨城県</td> </tr> <tr> <td>C 宮崎県</td> <td>D 群馬県</td> </tr> </table> 	A 北海道	B 茨城県	C 宮崎県	D 群馬県
A 北海道	B 茨城県				
C 宮崎県	D 群馬県				

3 4つのグループの野菜づくりがさかんな理由を考える。

【予想される反応】

- A…広大な農地 → 「地形」
- B…大都市の近く → 「位置」
- C…冬でも暖かい → 「気候」
- D…夏でも涼しい → 「気候」

・グラフや地図を基に、4つのグループのさかんな理由を「位置」「地形」「気候」の観点から考えさせる。

・Bについては「なぜ大都市の近くなのか」を、C、Dについては「なぜ時期をずらすのか」を考えさせ、携わる人々の工夫や努力に気付かせる。



4 野菜づくりがさかんな地域の特徴をまとめる。



野菜づくりがさかんな地域は、時期をずらしてつくるなど気候が大きく「関係」している。



大都市に近いと新鮮なうちに運べるしよく売れるので、輸送が「関係」している。

・社会的事象の特色や事象間の関連を説明させるために、今日の学習で分かったことをキーワードの言葉を使ってまとめさせる。

◆野菜づくりのさかんな地域の特徴をまとめることができたか。(ワークシート・発言)

◎キーワードと資料から分かることを使って、特色を適切にまとめている。

○キーワードを使って特色をまとめている。

→資料から分かることを付け加えさせる。

△キーワードを使わずに特色をまとめている。

→「位置」「地形」「気候」の3つの観点を基に考えさせる

・給食の献立で佐賀県産の野菜を意識して使っていることを紹介し、新たな疑問を持たせる。

5年 社会科ワークシート名前()

【学習のめあて】

のさかんな地域の特ちょうをまとめよう。

1 野菜づくりがさかんな理由をグラフや地図、資料から考えよう。

D ()

群馬県の野菜づくりの様子の写真
(高冷地野菜)



A ()

北海道の野菜づくりの様子の写真
(広大な畑)

C ()

宮崎県の野菜づくりの様子の写真
(促成栽培)



B ()

茨城県の野菜づくりの様子の写真
(近郊農業)

2 今日の学習を自分の言葉でまとめよう (「 」という言葉を使えたらすごいよ)。